

## 要旨

### 1. はじめに

子ども達の心身の健康に関わる問題・課題は、かつてないほど複雑化・深刻化している。また、近年の子ども達の多くは、心の健康問題を何らかの身体的不調として表出しており、保健室に来室する子どもが増えている。来室の背景要因としては、「身体に関する問題」より「心に関する問題」が多く、メンタルヘルスに関する課題への対応が重視されている。このような中、養護教諭は、その職務の特質や保健室の機能を十分生かし、児童生徒の様々な訴えに対して、心や体の両面への対応を行う健康相談を行うことが求められる。そこで、本研究の目的は、中学生の心理的な問題における健康相談のプロセスと、プロセスを構成する内容を明らかにすることである。

### 2. 方法

中学校養護教諭8名に半構造化インタビュー調査を実施し、テーマ分析を用いて分析した。

### 3. 結果と考察

テーマ分析の結果、『子どもに心理的な問題がある時の養護教諭が行う健康相談のプロセス』として、養護教諭は健康相談が開始される前から、【円滑に健康相談を行うための準備】を行っていた。《子どもに関わる情報収集》をし、心理的な問題を抱えた生徒の早期発見に努め、《教員間の関係構築》《子どもが安心できる関わり》をし、健康相談体制を整えている。健康相談を開始してからは、子どもが保健室来室時に、子どもと養護教諭一対一で行う【第1アセスメント】と【第1対応を】同時に行う。まず、《身体症状の判断》をアセスメントし、《身体症状への対応》をする。そして、《受け入れる関わり》《子どもが安心して話せる関わり》という対応をしながら、子どもの反応の確認、アセスメントをし、《心理的要因の予測》を立てる。そして、《自己理解を促す保健指導》《継続した健康相談に向けての備え》をすることで、子どもとの関係性を築く。この【第一アセスメント】と【第一対応】は一回から複数回行う。【第1対応】後、心理的な要因が予想される子どもについてはさらに、養護教諭が本人や保護者、教員、子どもの友人などと協力しながら多角的な視点で【第2アセスメント】を行う。周囲の人々と協力し、多角的に問題を捉えることで、《心的要因の把握》《対応に当たっての目標の設定》《対応方法の検討》をする。【第2アセスメント】後は、【第2対応】にて、決めた対応の中で役割分担をし、養護教諭は、子どもへの指導や、関係機関と調整、子どもとその周りの関係調整を行う。対応後は一連の健康相談を振り返り、【評価】【フォロー】をし、継続的に子どもの心理的な健康を見守る。また、健康相談の対応は、【健康相談を困難にする要因】の影響を受け、様々な制限を受けながらも、養護教諭は状況を見極め、できることを模索し、健康相談を行っている。

### 4. 結論

本研究では、中学生の心的要因における健康相談のプロセスとプロセスを構成する内容について明らかにした。

キーワード：中学生、心理的な問題、健康相談、質的研究